

平成31年度 秋田県立大館鳳鳴高等学校 家庭科 シラバス

将来の自立のための衣・食・住に関する基礎・基本となる知識と技能・技術の習得を通して、生きる力や人として

1. 学習の到達目標 自立するための姿勢を身につけます。また、保育、共生、経済等生活に必要な知識や技術を学習しながら、一生を通じて大切な命を安全に育んでいくための主体的・実践的能力を身につけます。

使用教科書 家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍) 最新 生活ハンドブック (第一学習社)

2. 学習指導計画

学 期	月	内 容	学 習 内 容	学 習 活 動	評 価 の 観 点	考 査 範 囲
前 期	4	第6章 衣生活を つくる	オリエンテーショ ン 被服の役割を考 える 被服を入手する	・家庭科を学ぶ意義と必要性について ・被服のさまざまな役割を整理する ・被服材料の特徴を理解し、組織表示・取扱 い絵表示・サイズ表示などの意味が分かる ・繊維に関する実験・実技① ・糸に関する実験・実技② ・布を使った伝統的な生活の工夫を知り、現 代に生かす	○◆●被服材料や性能に関心をもつとともに、 目的の応じた素材を選択できる	前 期 末 考 査
	5		被服を管理する	・汚れ落ちのしくみを理解し、被服に適した 洗濯や保管方法を知る。・洗濯に関する実 験③	◇日常生活に必要な基本的な縫い方ができる ○●衣服の管理の具体的な方法を知り、自分の 衣生活に生かそうとする	
	6		布を用いた生活の 知恵 被服を管理する			
	7	第5章 食生活を つくる	調理の基礎	・基本的な調理技術を学び、日常食 作りに 役立てている ・調理①切り方の習得 ・食事バランスガイドを利用して、 日常生 活を振り返る	○●◆調理実習や実験を通し、食品の特性や栄 養を科学的に捉えている ○●◇実習内容を理解し、積極的かつ班員と協 力して実習に臨んでいる ◇調理の基礎技術を習得している ◆食事バランスガイドで日常生活の食事の見 直しができる	
	8	学校家庭クラブとホームプロ ジェクト		・家庭生活の改善向上を目的に調査 ・活動 ・発表する	○●◇◆学んだことを実生活に活かし、そのレ ポート報告ができる	
	9	第5章 食生活を つくる	食事と栄養・食品	・日常的な食品の栄養的特質や調理 上の性 質について科学的に理解す る ・自分や家族の食事摂取量や食品群 別摂取 量を知る	◆五大栄養素の働きを理解している ◆●◇栄養価計算ができる ◆●◇ライフステージごとの摂取量や五大栄 養素のバランスを考慮した献立作成ができ る	

学期	月	内容	学習内容	学 習 活 動	評 価 の 観 点	考 査 範 囲
後 期	10	第5章 食生活をつくる	調理の基礎 これからの食生活	・各ライフステージに応じた食事計画を立てることができる ・食生活の変化の問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える ・調理実習① ・調理実習② ・調理実習③	◆◇食の安全や自分の健康を考えた食品選択ができる ◇調理の基礎技術を習得している ○●◆調理実習や実験を通し、食品の特性や栄養を科学的に捉えている ○◆●現代の食生活の特徴と問題点を理解し、自分の食生活の在り方を積極的に見直そうとしている	後 期 考 査
	11	第8章 経済生活を営む	経済的に自立する	・一人暮らしにかかる生活費を知り、家計収支の構成やバランスについて考え、大学生活を経済的側面からイメージする	◆●一人暮らしの家計の収支について考察することができる	
		第7章 住生活をつくる	住生活について考える 計画的に使う	・平面図の読み方や快適な住まいの条件を知り、一人暮らしのアップの条件を考える ・部屋のインテリアや使い方を具体的に考える ・コミュニティを育む新しい住まい方を知る	○住空間に関心をもち、自分のライフスタイルに合った住生活について考えようとしている ●◇快適な住生活を営むための、具体的な計画立案できる ◆家族の変化に即した住まい変化について理解している	
	12	第1章 自分らしい人生をつくる	青年期の課題	・結婚に関する意識や家庭の機能の変化について知る ・変化する家族、家庭の形を知り、将来の家族像を考える	○◆結婚や家庭について考え、これからの自分の人生について展望しようとしている ●現在の家族のあり方について社会的背景と関連づけて理解している	
		第2章 子どもと共に育つ	子どもの育つ力を知る これからの保育環境	・胎児の発育と母胎変化、妊娠中の留意点を知る ・子どもの心身の発達について知る ・子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する子どもにとっての遊びの必要性を知る ・子どもの貧困について現状を知り、子育て支援や児童福祉制度を理解する	◆妊娠に関する知識や留意点、乳幼児の心身の発達と生活について理解している ●◇子どもの発達に必要な環境や親の養育態度について、具体的に考え、まとめることができる ○◆●現在の子どもを取り巻く現状から課題を自分なりに解決しようと考えている	
	1	第4章 共に生き共に支える	私たちの生活と福祉 社会保障の考え方	・一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る ・社会保障・社会福祉制度を理解する	○◆共生社会を実現する一員として何ができるか主体的に考えることができる ●リスクへの対応や回避、社会制度や社会福祉や理念について理解している	
	2	第9章 生活を設計する	生涯を見通す	・ワーク・ライフ・バランスとは何かを知る ・人生をデザインする	●◆現代の家族の特徴や家族関係の変化を理解し、将来の生活をイメージできる ○●◆自分が希望する働き方やワーク・ライフ・バランスの重要性について具体的に考えることができる	
	3	第1章 自分らしい人生をつくる	食品と調理 青年期の課題 家族・家庭を見つめる	・青年期の発達課題として自立について考える ・男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ ・家族・家庭に関する基礎的な法律を学ぶ	◆自立した生活を目指し、生活資源が何であるか、また生活資源の活用の仕方が生活設計につながることを理解している ●将来の自分を見通して自分らしい生き方を具体的に考察することができる	
		第8章 経済生活を営む	現代の消費社会	・多様化する販売方法・支払い方法について学ぶ ・消費者を取り巻くさまざまなトラブルについて知り、それらに巻き込まれないよう、対処の仕方を学ぶ	●◆消費者は保護されるだけでなく権利の主体者として責任ある消費行動が求められることを理解できている	

評価方法：前・後期

・ 考査、授業への姿勢、実習・実技への臨み方、作品・課題等の提出・内容などによる総合評価

・ 観点別評価 次の4つの観点を中心に行う

- 関心・意欲・態度
- 思考・判断・表現

◇ 技能

◆ 知識・理解

生活について関心をもち、進んで知識と技術を学ぼうとしているか。
課題を適切にとらえ、その解決を目指して、得た知識・技術を活用・応用できるか。

生活を向上させるための知識・技術を応用発展させ、その成果を適切に表現できるか。

人間の発達と生活の営みについて、実生活の充実向上に役立つよう総合的に理解しているか。

